

## 「愛媛果試第28号」について

果樹試験場では、本県の気候風土に適し、消費者ニーズに即した優良なカンキツ新品種の育成を目的として、交雑育種を続けている。このうち「愛媛果試第28号」を、種苗法に基づく品種登録申請していたところ、平成15年9月8日に出願公表となった。

愛媛果試第28号は、平成2年に「南香」を種子親に用い、「天草」の花粉を交配して育成した。

果実は約250g程度で、赤道部から果梗部にかけて尖ったような独特な果形をしている。果皮は滑らかで、温州ミカンより赤味が強い。果皮・じょうのう（袋）とも非常に薄く、肉質は極めて柔軟多汁であり、カットフルーツとして食することが適切である。

浮皮やす上がりは発生せず、種子は通常入らない。成熟期は12月で、糖度12～13度、クエン酸1%程度となり、年末贈答用商材として期待される。

樹勢はやや強く、樹姿は当初立ち上がるが、徐々に開張してくる。若いうちは、長大なトゲが発生するが、結実し始めると徐々に消失する。結実性は良く、豊産性である。

果皮が弱く、成熟すると「天草」のクラッキングに似たひび割れが果梗部に生じ、そこから腐敗するため、ひび割れの発生前または発生が始まれば直ちに収穫する必要がある。

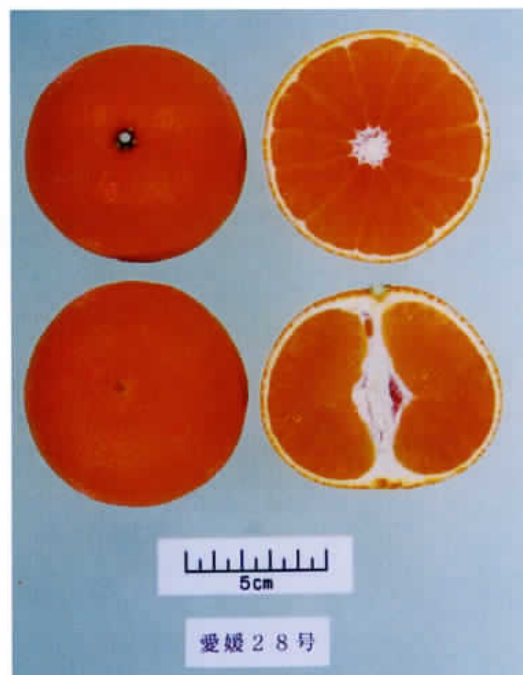


写真1 愛媛果試第28号

現在、ひび割れ発生抑制などの栽培技術確立試験を進めているが、これまでのところ、屋根掛け栽培や袋掛け栽培により、ひび割れの発生はかなり抑制できるようである。

ポスト伊予柑品種のひとつとして期待されており、現地適応性試験を実施している。

(育種班 主任研究員 中田治人)

表1 愛媛果試第28号の果実品質（東野ほ場）

分析日	1果重 (g)	果形指数	果肉歩合 (%)	糖度計示度	クエン酸含量 (g/100ml)	糖酸比
11.12.10	248	112	84.6	11.9	1.08	11.0
12.12.20	251	108	81.1	11.9	1.18	10.1
13.12.21	324	110	83.1	13.5	1.15	11.7
14.12.19	166	116	85.4	16.1	1.41	11.4
15.11.20	182	106	82.2	14.0	1.24	11.3